

# 海の路

Vol.29

SEAROAD 2017



巻頭言	P.1
平成28年度総会	P.2~4
平成28年度担当者会	P.5~9
環境事業委員会活動	P.10~12
魅力検討委員会活動	P.13~14
情報発信委員会活動	P.15
瀬戸内海活性化活動支援報告	P.16
瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告	P.17~19
後援活動報告	P.20
第10回瀬戸内海首長サミット	P.21~22



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

## 会員構成

### 大阪ブロック

大阪府 泉佐野市  
大阪市 泉南市  
堺市 阪南市  
岸和田市 忠岡町  
泉大津市 田尻町  
貝塚市 岬町  
高石市

### 徳島ブロック

徳島県 小松島市  
徳島市 阿南市  
鳴門市 松茂町

### 香川ブロック

香川県 三豊市  
高松市 土庄町  
丸亀市 小豆島町  
坂出市 直島町  
観音寺市 宇多津町  
さぬき市 多度津町  
東かがわ市

### 兵庫ブロック

兵庫県 相生市  
神戸市 加古川市  
姫路市 赤穂市  
尼崎市 高砂市  
明石市 南あわじ市  
西宮市 淡路市  
洲本市 たつの市  
芦屋市 播磨町

### 愛媛ブロック

愛媛県 伊予市  
松山市 四国中央市  
今治市 西予市  
宇和島市 上島町  
八幡浜市 松前町  
新居浜市 伊方町  
西条市 愛南町  
大洲市

### 和歌山ブロック

和歌山県 湯浅町  
和歌山市 広川町  
海南市 日高町  
有田市 由良町

### 岡山ブロック (山口・福岡・大分)

岡山県 笠岡市  
岡山市 備前市  
倉敷市 瀬戸内市  
玉野市 浅口市

山口県 福岡県  
下関市 北九州市  
宇部市 茄田町  
山口市 大分県  
防府市 大分市  
岩国市 別府市  
光市 佐伯市  
柳井市 中津市  
吳市 幸日市市  
竹原市 江田島市  
三原市 海田町  
尾道市 坂町  
福山市 大崎上島町

### 広島ブロック

広島県 大竹市  
広島市 東広島市  
呉市 幸日市市  
竹原市 江田島市  
三原市 海田町  
尾道市 坂町  
福山市 大崎上島町

### 国会員

近畿地方整備局 九州地方整備局 中国運輸局  
中国地方整備局 近畿運輸局 四国運輸局  
四国地方整備局 神戸運輸監理部 九州運輸局

## 航路情報提供Webサイト 「みとナビセとうち」

<http://www2.uminet.jp/top/>



QRコードで携帯から簡単アクセス  
<http://www2.uminet.jp/knavi.jsp?cd=i>

### みとナビ広島

<http://www2.uminet.jp/>  
「みとナビ Hiroshima」は広島港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

### みとナビ三原・尾道

<http://www2.uminet.jp/mihara/>  
「みとナビ 三原・尾道」は三原港および尾道港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

### みとナビ高松・宇野

<http://www2.uminet.jp/takamatsu/>  
「みとナビ 高松・宇野」は高松港および宇野港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

## 協議会Webサイト「海の路」

<http://www.uminet.jp/>



海の路  
Vol.29

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

発行/瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局  
協議会Webサイト「海の路」<http://www.uminet.jp/>  
みとナビセとうち <http://www2.uminet.jp/top/>

岡山県倉敷市瀬戸大橋

# 卷頭言



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 会長  
おばな まさひろ  
和歌山市長 尾花 正啓

## 寄稿

会員の皆様におかれましては、平素より瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の活動にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年5月、大分県中津市にて開催いたしました瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成28年度総会及び第10回瀬戸内海首長サミットには、瀬戸内沿岸各地域より総勢15市町の首長をはじめ、近畿・中国・四国・九州から多くの関係者の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

本総会では、平成27年度の事業・収支決算報告と平成28年度の事業計画・予算案などが議論され、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興・防災にかかる支援制度の活用などについて決議されました。

また、首長サミットでは、「地域連携による瀬戸内海クルーズの活性化に向けて」をテーマに議論を行い、瀬戸内の豊富な観光資源を活かした周遊ルートのイメージや、瀬戸内での地域連携を推進し、地域振興を進めるに

はどうすれば良いか等について活発な意見交換が行われました。

ご地元の一つ一つの観光資源もさることながら、それらが歴史・文化に裏打ちされた瀬戸内にしかないストーリーによって結びついていくことが、周遊ルートとしての瀬戸内を世界に通用する観光地域ブランドとして確立することに繋がります。会員皆様方の連携が何よりも大事になりますので、尚一層の連携強化をお願いしたいと思います。

そして、本協議会の骨格事業である「リフレッシュ瀬戸内」には、昨年も約42,600人のボランティアの方々にご参加いただき、351トンのゴミを回収することができました。

美しい海、美しい海岸を自身の手できれいにしていくという意識を高めていく上で、大変意義深いものであると思います。

今後も、瀬戸内・海の路の地域振興に努めるとともに、瀬戸内のなれど層の魅力発信により、更なる会員相互の絆と、連携を図りながら、瀬戸内地域全体の発展に取り組んで参りますので、皆様の益々のご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

## 平成28年度総会

平成28年5月31日 大分県中津市

平成28年5月31日(火)大分県中津市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成28年度総会を開催いたしました。総会には、瀬戸内海沿岸各地から15市町村の首長と会員である各自治体及び地方整備局等の担当者約150名が参加して開催されました。

第一部の総会では、平成27年度の事業・収支決算報告と今年度の事業計画・収支予算案等について審議が行われ原案どおり可決されました。第2部では、第10回瀬戸内海首長サミットが14市町村の首長参加により開催されました。「地域連携による瀬戸内海クルーズの活性化に向けて」をテーマとして話し合の新しい形として提案するためには何ができるか、何が必要か、旅行者のニーズは何であるかを共有し、地方創生に繋がる周遊ルートの可能性について活発な議論が行されました。

し、また広島県防災拠点施設から江田島市防災拠点施設等の間で、大規模地震等に備えた災害時の相互応援訓練として陸・海貫した緊急物資輸送訓練を実施し、離島への緊急物資輸送の有効性を確認するなど、防災対策の推進を図る取組が着実に進められている。

「受け継ぎ、きれいで豊かな瀬戸の海」を合い言葉として活動している「リフレッシュ瀬戸内」については、海岸周辺の清掃を中心に多くのボランティアの協力のもと継続して実施され、今年度で24年目となつた。また、クルーズに関してはアジアを中心とし、当協議会より支援を行っているところである。このような活動を通じ、会員同士の連携強化を図っていくことが重要であり、今後も当協議会のより一層の活性化のため、会員の皆様からお寄せいただいた提案や地域情報など、当協議会の活動に生かして行きたいと思う。引き続き、会員の皆様においては海ネット協議会活動への理解と協力をお願いする」との開会の挨拶をいただきました。

## 総会議事



総会の様子

総会の開会にあたり、協議会会長である尾花正啓和歌山市長より、本協議会の70会員が締結している「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」に関しては、今後高い確率で発生が予想される南海トラフ巨大地震等に対し、円滑かつ迅速な応援に資するための共有可能な資機材・物資リストや連絡体制の確保に努めている。また、海ネット協定の実効性の確保に関しては、平成25年度に初めて行われた情報伝達訓練の反省を踏まえ、平成27年度においても情報伝達訓練を実施



尾花 正啓 和歌山市長挨拶



太田 豊彦 大分県副知事

り、「4月に発生した熊本地震においては大分県でも道の路や橋梁、港湾関係でも被害があり、応急的な復旧を行い、海運、海路については滞りなく運用を行っているが、改めて海上輸送の重要性を認識した。例えば、救援物資が最も被害が大きかった熊本県内へ輸送された。また、本県では東九州自動車道が4月に全線開通し、これを契機に九州の東の玄関口としての拠点化を進めている。CO<sub>2</sub>の削減という観点から、九州の大分県から中国、四国、近畿、さらには関東へ海上輸送の重要性が益々増している。今の陸上

歴代会長
平成3年～平成6年 姫路市長 戸谷 松司
平成7年～平成10年 坂出市長 松浦 稔明
平成11年～平成14年 小松島市長 西川 政善
平成15年～平成17年 玉野市長 山根 敬則
平成17年～平成18年 玉野市長 黒田 晋
平成19年～平成20年 下関市長 江島 潔
平成20年 下関市長 中尾 友昭
平成21年～平成26年 大竹市長 入山 欣郎
平成27年～ 和歌山市長 尾花 正啓

輸送の主流はトラックである。その前は鉄道、その更に前は海上輸送が主流であった。瀬戸内海が人と物の流れによって、活発な交流をし、大分県豊後国の時代を含め、九州の東の玄関口として機能していたということを改めて思い起こしている。本協議会を通じ、瀬戸内海のネットワークが更に密接になり交流が盛んになることを祈念している。」との挨拶をいただきました。

続いて、津田修一国土交通省大臣官房技術参事官より、「当協議会においては設立から25年を迎えられ、この間、様々な活動を実施されており、特に瀬戸内海の魅力の発信や、環境の保全、観光の振興、更には災害時の協力体制の構築といった活動に積極的に取り組んでおられる。我が国では地方創生がひとつの課題になっているが、このような活動は、瀬戸内地域のみならず、我が国にとって大変貴重な地域資源を生かしたその二つのモデルとして意義深いものだと考えている。国土交通省としても、皆さんと一緒にして積極的にこの地域の活性化に取り組んで行きたいと考えている。」との挨拶をいただきました。

そして、最後に地元開催市である、奥塚正典中津市長より、「本日は、尾花協議会会長をはじめ、瀬戸内の各地からご参加を頂き心からお礼を申し上げたいと思います。4月に地震が発生し皆様には大変ご心配を頂いたと思いますが、当市中津市も一部落石等もございましたが、人的な被害も全くございませんでした。むしろこちらの持つてある元気を全国に、あるいは熊本・大分の被害に遭った地に送り出さなければいけない、そういう気持ちもございまして、情報発信に努めているというところでございます。中津の港は1999年に重要港湾に指定をされ、その後、背後地にダイハツ九州(株)の組立工場が立地し、北部九州の自動車産業を支える重要な港です。これからも地域経済を牽引をしていくポテンシャルの高い港だと考えています。また、瀬戸内のクルーズ振興の取組に大いに期待しております。



津田 修一 国土交通省大臣官房技術参事官

## 第10回 瀬戸内海首長サミット



第10回瀬戸内海首長サミットの様子

これまでの瀬戸内海首長サミットでは、平成26年「第8回首長サミット」において、瀬戸内海地域が一体となって観光・防災両面の取り組みを進める決意表明として「松山宣言」が採択され、昨年平成27年の「第9回首長サミット」では、海ネット会員同士が連携して「クルーズ振興」に取り組む議論が交わされました。瀬戸内地域は、大小さまざまの島と静穏な海が織りなす美しい景観や、歴史的建造物、海の幸、山の幸に代表される特産品など、非常に魅力的な地域です。国外の船会社が小型のプレミアムシップを日本着クルーズに投入し、瀬戸内海をゆったりと航行するコースが好評を博しているという実績もあります。また、鉄道分野においても、「ななつ星I N九州」に代表されるクルーズトレインが、高額な料金設定にもかかわらず、申込者の殺到や、リピーター率が20%を越える等高級志向の傾向が如実に表れています。国内外の旅行客を瀬戸内地域へ取り込むために、それぞれのみどころを地域と地域が連携して発信し、周遊コースを形成できるということが本協議会の強みと云えます。

今年度の第10回瀬戸内海首長サミットでは、「地域連携による瀬戸内海クルーズの活性化に向けて」をテーマとし、瀬戸内周遊クルーズを高級感あふれる、クルーズの新しい形として提案するためには何が出来るか、何が必要か、旅行者のニーズは何であるかを共有し、地方創生に繋がる



第10回瀬戸内海首長サミットの様子

瀬戸内を核とした地域振興、瀬戸内海のさらなる魅力

発信のために、本協議会の会員の皆様方と交流を深め、熊本地震のような災害時には、本協議会のネットワークを生かした相互の応援体制が取れるよう願っています。」との歓迎の挨拶をいただきました。



議長に選出された 藤本 昭夫 島村長

周遊ルートの可能性について活発な議論が行われました。

翌6月1日(水)には、中津城、福澤諭吉旧居、青の洞門の視察を行いました。

○中津城 周防灘に臨む中津川河口に築城された平城で、堀には海水が引き込まれるために水城ともされ、日本三大水城の一つに数えられます。石垣は黒田孝高(如水)が天正16年(1588年)に普請したものです。現存する近世城郭の石垣としては九州最古のものといわれています。現在の天守は、1964年(昭和39年)、旧藩主奥平家が中心となり、中津市民からの寄付も合わせて建造されました。

○福澤諭吉旧居 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずといへり」福澤諭吉(1835年1月10日-1901年2月3日)は、慶應義塾の創設者であり、専修学校(後の専修大学)、商法講習所(後の橋大学)の創設に尽力したことから、明治六大学教育家のひとりに列せられています。

○青の洞門 諸国巡礼の旅の途中に耶馬渓へ立ち寄った禅海和尚は、極めて危険な難所であった鎖渡で人馬が命を落とすのを見て、享保20年(1735年)に洞門開削の大誓願を興したと伝えられます。禅海和尚は托鉢勧進によって資金を集め、雇った石工たちとともにノミと鎌だけで掘り続け、30年余り経った明治元年(1864年)、全長342m(うちトンネル部分は144m)の洞門が完成しました。

視察を通して、中津市に根付く文化や歴史について見聞を広めることが出来ました。



中津城視察の様子



福澤諭吉旧居記念館視察の様子



青の洞門視察の様子

総会議事については、議長に選出された、藤本昭夫姫島村長の議事進行により、平成27年度の事業・収支決算報告、平成28年度の事業計画・予算案などの7議案について審議が行われました。平成28年度においては、「リフレッシュ瀬戸内」の参加人数の拡大を図るための活動や、会員同士の連携や瀬戸内地域の交流・連携、地域振興の取組が積極的に展開されるよう「海ネットイベントプランコンテスト」等の各支援制度の活用推進、前会長の入山欣郎大竹市長の顧問の委嘱、平成29年度総会を和歌山県和歌山市で開催することなどが決議されました。顧間に就任された入山欣郎大竹市長より「平成21年より6年間、会長を務めさせていただきました。就任中は会員の皆様をはじめ、国土交通省中国地方整備局の皆様方のご協力により無事に職責を全うすることができたと思っております。改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。また、このたび、ご承認をいただき、顧間に就任させて頂くこととなりました。会長の尾花和歌山市長様と会員の皆様とともに微力ではございますが、一生懸命役割を果たして参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。」とのご挨拶をいただきました。



顧間に就任された 入山 欣郎 大竹市長

# 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 平成28年度担当者会の開催報告

平成28年11月21日(月)～22日(火)の2日間、広島県呉市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 担当者会を開催しました。当日は約100名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。

また、22日に行われました現地視察では、ジャパンマリンユナイテッド(株)の事業所見学や、呉港周遊クルーズ船に乗船して海上から呉の港を視察しました。

## 開会

担当者会の開会にあたり、当協議会の幹事長である、高橋正浩広島市都市整備局みなど振興課長より、「本年5月31日に大分県中津市において開催された総会及び第10回瀬戸内海首長サミットでは、15名の首長様に参加いただき、『地域連携による瀬戸内海クルーズの活性化に向けて』をテーマに、地方創生に繋がる瀬戸内海のクルーズ船周遊ルートの可能性について

建設計なご議論をいただき、非常に有意義なものとなつた。本日の4つの実行委員会(分科会)においても率直な意見を出していくだけことによって、より中身の濃い議論が出来るものと期待している。」との開会挨拶をいただきました。

次に、開催地を代表して、小村和年呉市長より、「ここの呉市は明治22年に海軍鎮守府が開庁し、東洋」と言われた海軍工廠が設置された。この様な中、日本人が



高橋 正浩  
広島市都市整備局みなど振興課長

「瀬戸内海クルーズ推進活動支援」、「リフレッシュ瀬戸内全体拠点地環境関連行事等連携支援」、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポートー提案事業」、「防災対策推進活動支援」について、引き続き募集を行っていますので会員の皆様の積極的な活用をお願いし、来年度の総会は和歌山県和歌山市にて開催、担当者会については福岡県苅田町にて開催するので皆様の参加をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

続いて、昨年度の「海ネットイベントプランコンテスト」のイベント実施報告が行われました。最優秀賞「さあ釣り始めよう！第2回アマリー釣り大会 in 中島」松山市は「釣りを通じたイベントを続けることで海や島への来訪者が増える事を願っている」。優秀賞「紀州湯浅のギョギヨとお魚まつり」湯浅町は「今年は巡回水族館やヨットクルージングなど子供達に楽しんでもらえる新しい企画を用意した。また来年に向けて改善し新しい企画も考えて行きたい」。奨励賞「ふくやま港まつり2016」福山市は「普段は入ることが出来ない福山港国際コンテナーミナルの第2バースをコントラクトで仕切って特設会場を設けた。多くの方に港湾施設の存在や役割、重要性などを認識して頂けた」と報告をして頂きました。

また、今年度の「海ネットイベントプランコンテスト」については、広島市の1案のみの応募のため、第2次審査はプレゼン後に、どの賞が相応しいかの投票を行い、最優秀賞を獲得されました。受賞の挨拶として、広島市より「来年度で5回目の若いイベントだが、プレゼンを通して「うじな潮風フェスタ」の魅力を伝えることができたと思う。来年度、期待されているということを受け取つており、良いイベントとなるよう頑張りたい」と本企画への意気込みを語っていました。



最優秀賞 松山市



優秀賞 湯浅町



奨励賞 福山市

ただきました。

引き続き、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会の4つの実行委員会に分かれての議論が行われました。

第2部の全体会では、各実行委員会での議論の内容報告、及び平成29年度の活動内容についての方向性が提示されました。瀬戸内海地域の振興・発展、協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

実行委員会においても担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。なお、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会での各議論の内容は以下のとおりです。

## 分科会

### 魅力検討委員会

魅力検討委員会では、平成28年度の活動状況と平成29年度の活動方針について、①現在の審査方法の見直しやプレゼン・実施報告などの負担の軽減、②支援金の翌年度支出について、予算の確保が担保できる仕組みの検討、また、中止となつた場合の取り扱いの追加、③イベント企画書の作成負担の軽減、記載マニュアルの作成などのご意見を頂きました。



第2部全体会の様子



広島市

日本人だけの手で初めて鉄の船を造つてから、わずか50年弱で戦艦大和を造った。その過程は他の町と違う特徴を持った歴史文化となり、今年の4月に日本遺産の認定を受けた。明日は、ジャパンマリンユナイテッド(株)の現場視察と聞いている。ここは海軍工廠の造船部門であり、戦艦大和を造ったドックが殆どそのまま残っていて、今は戦艦大和よりも100m長い363m、1万4000個積みのコンテナ船が作られている。また、湾内クルーズの特に海上自衛隊では潜水艦がたくさん見られる。皆様に視察して頂くことで大変嬉しく思う。我々は、瀬戸内海の恵みを次の世代に伝えていく責任を持っていると思うので盛んに議論をして頂きたい。」との歓迎の挨拶をいただきました。



菅 高徳 港湾物流企画室長

平成28年度事業報告、分科会(実行委員会)及び全体会

平成28年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と実施済み事業の報告を行いました。支援事業である「瀬戸内海活性化活動支援」、(せとうちDMO)など様々な動きがある。このような中、これらの動きと連携していくために当協議会として具体的にどのような取り組むのか、取り組むべきなのかという観点からも議論して頂ければ幸いです。」との挨拶を行いました。

続いて、事務局を代表して中国地方整備局港湾空港部菅高徳港湾物流企画室長より、「昨年6月に「広域観光周遊ルート」として「せとうち海の道」が認定され、せとうちのブランド化のために本年春、瀬戸内観光推進機構が発足した。金融機関や民間企業も参加して瀬戸内ブランドの向上のための推進体制が整う(せとうちDMO)など様々な動きがある。この様な中、これらの動きと連携していくために当協議会として具体的にどのような取り組むのか、取り組むべきなのかという観点からも議論して頂ければ幸いです。」との挨拶を行いました。

戸内海の恵みを次の世代に伝えていく責任を持つていると思うので盛んに議論をして頂きたいたい。」との歓迎の挨拶をいただきました。

戸内海の恵みを次の世代に伝えていく責任を持つていると思うので盛んに議論をして頂きたいたい。」との歓迎の挨拶をいただきました。

戸内海の恵みを次の世代に伝えていく責任を持つていると思うので盛んに議論をして頂きたいたい。」との歓迎の挨拶をいただきました。

今後、これらの意見を踏まえ事務局で改訂案を作成し、来年4月の幹事会にて改定案を提示し、来年6月の総会にて承認を頂いたうえで、平成29年度より実施する方針であることを確認しました。

また、「瀬戸内・海の路利用振興事業」と「海ネットサポーター提案事業」については、制度のイメージがわかりにくい、会員への周知不足であるといった意見を頂きましたので、今後、これまでに行つた実施事例をわかりやすく紹介するなど、制度利用をより一層促進するための対策を講じることを確認しました。

最後に、平成29年度の活動方針として、「海ネットイベンツプランコンテスト」で選ばれた事業を積極的に支援するとともに制度の見直しを行うこと、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポート提案事業」により、会員間の連携による防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を推進することについて、了承されました。

## ■環境事業委員会



魅力検討委員会の様子

これまで環境事業委員会は、「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断調査」を、環境事業委員会の骨格事業として継続して実施しており、その目的は、多くの人が参加できる海岸清掃活動を通じ、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の取り組みの理解を深めるものです。

平成28年11月に行われた担当者会「環境事業分科会」では、来年、「リフレッシュ瀬戸内」25年目(四半世紀)の節目を迎え、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の基幹事業とも言えるものに成長した方、余暇活動の嗜好や地域コミュニティの変化、熱中症対策等イベント主催者への要請の増大など、事業を取り巻く情勢は変化してきており理解を深めます。

についてのご意見を頂きました。  
これら議論頂いた結果を受け、リフレッシュ瀬戸内の開催期間等、事業計画に関する部分は、環境事業委員会所属会員と相談の上、平成29年度の実施方針に反映、幹事会・総会へお諮りすると共に、実施上の課題については、実施要領の記載拡充等を行つて参ります。

## ■情報発信委員会

情報発信委員会では、「海ネットHP閲覧者の増加に向けた取り組み」として、よりも多くの方に海ネットに対し興味をもつていただける方法を検討しました。  
○主な現状の報告として、  
1. アクセス数は昨年と比較して約3割減少している(上半期のみの比較)。  
2. 昨年までは当番制にして各会員にHP更新をお願いしていたが、担当者への負担から今年は控えている。  
3. 特定の会員による更新しかなされていない。  
○問題点として、  
● HPの更新に必要なIDとパスワードが各会員専用に設定されていることと、それによってHPの更新が可能な事を各会員に向けて毎年周知することを確認しました。  
また、事務局である九州地方整備局ではセキュリティの関係から更新作業やアクセス解析が出来



情報発信委員会の様子

ります。

また、リフレッシュ瀬戸内は例年、全体拠点地を1箇所、ブロック拠点地各1箇所をシンボルとして、瀬戸内沿岸の各地で清掃活動を実施しておりますが、最近は拠点地、中でも全体拠点地の選定が思うように進まない状況も発生しております。

これらの状況変化を踏まえ、現在の「リフレッシュ瀬戸内」の実施方法と、参加者・主催者(会員)のニーズが乖離してきている状況があれば、25年目を契機とした実施方法の見直しを幹事会・総会に提案することも含め、分科会で検討いただきました。

①現行の実施方法の課題・対応方策の検討(全体拠点地の負担を軽減させる方策等)

・まず拠点地について、「全体拠点地で追加的に実施しなければならないことがわかりにくい。」「拠点地の役割や広報の仕方を明確に示してみては?」という、

実施要領に関する課題や、「拠点地になって清掃参加者が増えれば実施費用も増加するため、財政部局への説明を要する。」という財政上の課題、また、自然海岸ではない海岸で清掃実施されている会員団体からは、「参加者も立地企業関係者が中心で、拠点地というと一般の方がメインという印象で、(当該会員の実施

海岸は拠点地に向いていないと感じる。」というご意見も頂きました。  
・観光地で日常的に清掃されたり、海開き前など他の清掃が先に入っている場合など、もともと海岸が綺麗な状態でやりがいを感じて貰いにくいという課題、海岸に打ち上げられる藻類(アオサ等)について、焼却施設から受入に難色を示されているといった具体的な課題もありました。

②リフレッシュ瀬戸内の実施方法・支援方法の変換提案等

・「担当者が災害業務も担当しており、海岸清掃と(出水期等)災害対応の時期と重なる。」「リフレッシュ瀬戸内を実施していない会員団体からは実施時期の縛りがなければ良い。」等、開催時期



環境事業委員会の様子

防災委員会では、平成28年度の取り組みについて状況報告を行い、平成29年度の事業計画について活発な議論が行われました。

状況報告では、①情報伝達訓練による実効性の確保 ②防災対策推進活動支援事業 ③会員拡大による組織強化の実施計画について成果報告を行いました。

①については、熊本地震の影響の長期化により中止決定を報告するとともに、これまでの情報伝達方法が経年の訓練の成果より、会員数の増加に追随できていないこと、手続きや様式が煩雑であることの指摘から、見直しが必要であることを報告しました。  
②については、現時点で利用申請がないことから、引き続き積極的な利用を呼びかける必要があることを報告しました。  
③については、協定の実災害における活動実績がないため未加入会員へのPRが難しい状況に陥っていることが課題となつており、活動が停滞している現況を報告しました。

このような状況を踏まえて、会員が活用しやすい協定の運用の見直しが重要な課題であることを報告しました。

以上のことから、平成29年度の取り組み方針としては、協定第12条に規定する実効性の確保を重視的施策として取り組むこととしました。  
分科会では、以下の2点について重点的に取り組むことを提案し、議論を行いました。  
議論の概要は次の通りです。



防災委員会の様子

## ①災害時に会員が協定を活用しやすい環境整備の検討

本協定が最も有効なのは、海の路（海上輸送）を活用した物資輸送であり、船舶を所有しない会員が災害時に用船が可能とする方法や制度の検討が必要となります。

海上輸送手段の確保について船舶を所有しない大半の会員が船舶を利用しやすい環境整備をすることで、活動実績ができ、会員数の増加にもつながります。

②瀬戸内・海の路ネットワークのホームページ（以下、HPと言ふ。）の活用

物資輸送支援の円滑な実施のため被災会員と応援会員の情報共有ツールとして、従来の電話・FAXに代わりHPを利用します。

HPの活用は、会員全員と同時に情報共有が可能とし、担当者同士の直接調整することにより、タイムリーな情報共有が可能となり、様式や連絡行程の簡素化にもつながります。一方で、HPは便利なツールではありますが、本当に被災会員の省力化に繋がるのか今後検証が必要です。地震時の通信の脆弱性（ブリーズや不通の対応）等に対応が可能なのか。正常に機能しているのか幹事による確認も必要ではとの意見も付されました。

会員数は飛躍的に増加し70会員となり、海の路ネットワークの拠点数も増加し災害時の支援の輪がより充実できる条件は整っています。

本協定はこれまで大規模な地震等の災害の発生があったにも関わらず、未だ度も協定を発動した実績がなく、ネットワーク充実の効果が十分に發揮できているとは言いかがたい状況となっています。その要因として、前述の①船舶利用を可能とする制度等が整備されていないこと、②情報共有方法も会員規模に適したものでなく、実効性が必ずしも確保されているとは言えないこと等の協定の運用面での改善すべき課題を抽出しました。平成29年度の活動方針として、協定の運用を抜本的に見直し、会員にとって活用が容易で実効性の高い仕組み作りに向けて取り組んでいくことで了承されました。

## 環境事業委員会活動

### リフレッシュ瀬戸内の開催について 全体拠点地レポート

#### 兵庫ブロック 兵庫県高砂市

平成28年6月1日～8月31日の間、「受け継ごう、きれいで豊かな瀬戸の海」を合い言葉に24回目となる「リフレッシュ瀬戸内」を開催しました。今年度は瀬戸内海沿岸各地268箇所での開催となり、42,600人のボランティアの方々が参加し、351.52tのゴミを回収しました。

全体拠点地となつた兵庫県高砂市では、実施日の7月16日にボランティアの方々約179人が参加し、約5tのゴミを回収しました。また、全体拠点地の環境関連行事として、特に、子どもの参加を呼び込む効果的広報活動として、「加古川河口干潟の観察会」も併せて実施しました。

アサリを使った水質浄化実験や、小さなチゴガニのウェービングの観察など、楽しいプログラムで参加した子ども達も大喜び。特に、スルメと割り箸を使った「カニ釣り」での子ども達の真剣な眼差しと、釣れたときの嬉しそうな顔が大変印象的でした。

今後も、豊かな自然を受け継いでゆくため、この活動を継続していくことを考えています。



平成28年度リフレッシュ瀬戸内実施結果

府 県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)	府 県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)
大阪府	大阪市	7	1,432	6.10	徳島県	徳島市	10	2,517	8.30
兵庫県	高砂市*	20	1,877	43.50	愛媛県	伊予市	73	6,117	78.40
和歌山県	和歌山市	12	894	12.60	周防灘(山口県)		26	11,305	62.90
岡山県	岡山市	10	3,120	11.30	周防灘(福岡県・大分県)		18	3,015	37.10
広島県	尾道市	33	5,854	44.22	合 計		268	42,600	351.52

\*高砂市は全体拠点地

## 現地視察

翌日は、ジャパンマリンユナイテッド（株）の事業所見学の後、周遊クルーズ船「くれない5」に乗船して海上から呉の港を視察しました。

ジャパンマリンユナイテッド（株）では、戦艦「大和」の建造ドック跡や、完成間近の14,000TEU積コンテナ船、資料館を見学しました。（場内での写真撮影は禁止）

呉港クルージングでは、先ほど場内から見学したジャパンマリンユナイテッド（株）のコンテナ船を海上から見ることが出来ました。「くれない5」の船員さんによる音戸ノ瀬戸の歴史や、海上自衛隊の艦船や潜水艦の説明を聞きながら約1時間の海上視察を行いました。



建造中の14,000TEU積コンテナ船を見学

# リフレッシュ瀬戸内 ブロック拠点地レポート

環境事業委員会では、「ゴミを捨てない」、「ゴミを捨てさせない」といったゴミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるために、平成14年度から瀬戸内海沿岸地域の美化活動「リフレッシュ瀬戸内」と連携して、国際ビーチクリーンアップキャンペーンで実施されている手法を取り入れた「海の健康診断調査」(ゴミの組成調査)を実施しています。平成28年度は全ブロック中9箇所において調査を実施しました(伊予市は同一市内で実施のため、1箇所として整理)。なお、実施箇所及び実施結果につきましては、以下のとおりです。

素材別に見ますとプラスチック類と発泡スチロール類が全体的に多く、過去と同様の結果が得られました。(プラスチック率84.7%)これまでの継続的な調査により、ゴミの地域特性が明らかになってきており、瀬戸内海に住む人々のゴミに対する意識向上に役立てていきたいと考えております。

今後も調査を継続していくことによって、瀬戸内海全体で共通するゴミ、各地域の特徴的なゴミを情報発信し、ゴミ排出抑制への啓発活動に役立て、美しい瀬戸内海を次の世代に継承していく取り組みに繋げていきます。

## 海の健康診断調査を実施しました

### 岡山ブロック(岡山市)



7月3日、宝伝海水浴場(玉坪海岸)において150人(大人135人子供15人)が参加し、2.0tのゴミを回収しました。

#### 参加者からの意見

「夏休みに来た人が怪我をせず楽しく遊べるようにきれいにしました。」「夏には毎年海水浴に来ているので、きれいにして気持ちよく過ごせたらと思って参加しました。」「日ごろからきれいな海岸ではあるが、一層きれいになった。暑い中みなさんお疲れ様でした。」「地元のパレーボールチームに所属し、今年初めて参加しました。とても暑かったです。」

### 広島ブロック(尾道市)



6月12日に大町海岸・立花釣ヶ浜海岸・瀬戸田サンセビーチにおいて1,338人(大人970人子供368人)が参加し、0.9tのゴミを回収しました。

地元中学校やライオンズクラブ、職域単位での参加など、多くの地元の方達が清掃活動に参加してくれました。

### 大阪ブロック(大阪市)



6月25日に大阪南港野鳥園において37人(大人36人子供1人)が参加し0.4tのゴミを回収しました。

#### 参加者からの意見

「今年はごみが少なかったように思う。だんだんときれいになってきていると実感した。」「朝からリフレッシュできた。」



### 広島ブロック

雨天により、残念ながら、「海の健康診断」の実施を中止しました。

### 周防灘ブロック(山口・福岡・大分)

#### 岩国市(青木海岸)



#### 参加者からの意見

調査区域の設定(平均的な状態の区域の選定と、清掃参加者への調査区域の周知徹底。)に苦労した。

#### 姫島村(みつけ海岸)



#### 参加者からの意見

清掃を通じて地元の海への愛着を深めるとともに、「捨ないことの大切さ」を改めて感じることが出来た点が良かった。地元の海の現状を確認する良い機会ですので、今後も続けて行きたいと思っています。

### 岡山ブロック

#### 備前市(頭島外輪海水浴場)

#### 参加者からの意見

漂着ゴミの調査により、ゴミの発生原因と漂着ルートを考えることができた。ゴミの減量化について考えることができた。継続実施することで地域別に漂着ゴミの傾向が調査できるので、継続実施を検討したい。

改めて漂着ゴミの環境問題を考えることができた

#### (笠岡市)夏目海岸



#### 参加者からの意見

捨てられているゴミの種類がよく分かった。  
ゴミの収集分別の手順など進行方法に苦労した。

### 大阪ブロック

#### 大阪市(大阪南港野鳥園)



#### 参加者からの意見

定期的な清掃の重要性を実感できた。

地域住民・ボランティア等の不定期清掃、海水浴場開設期間の定期清掃が入るため、ゴミが残っている場所と残っていない場所の差が激しく、調査場所の設定に苦労した。

### 和歌山ブロック

#### 和歌山市(加太海岸)



#### 参加者からの意見

海開き前から海水浴シーズンは他団体による清掃活動が行われており、調査日設定が難しかった。雨天時の砂浜での作業は難しかった。調査が5月頃から実施できれば、他団体の清掃活動日から離すことが出来たため、調査が好ましい日を設定しやすいと考えられる。

### 愛媛ブロック(伊予市)



7月17日、森海岸ほか6箇所において732人(大人567人子供165人)が参加し、41.5tのゴミを回収しました。

#### 参加者からの意見

「参加者が多かったので、普段なかなか拾えない、大きなゴミも集めることができて、いつも以上に、海岸がきれいになって良かった。」「今回初めて参りましたが、予想以上に多くの参加者がいるのに驚いた。さらにみんな真剣に清掃活動に取り組んでいたので感心した。今後も本活動に参加し、地元の海岸をきれいにしていきたいと思う。」「今年はみきゃん※と一緒に掃除ができる、ゴミがいっぱい拾えてよかったです。テレビの取材も来て、すごいと思った。」※みきゃん(愛媛県イメージアップキャラクター)

### 和歌山ブロック(和歌山市)

6月19日、加太海岸において実施を計画していましたが、生憎の雨天で中止となりました。加太海岸から見渡す瀬戸内海は大変美しく、気持ちよく清掃できる海岸です。今年は、天気に恵まれることを祈っています。

### 徳島ブロック

#### 徳島市(小松海岸)

#### 参加者からの意見

定期的な清掃の重要性を実感できた。

地域住民・ボランティア等の不定期清掃、海水浴場開設期間の定期清掃が入るため、ゴミが残っている場所と残っていない場所の差が激しく、調査場所の設定に苦労した。

### 香川ブロック

#### 坂出市(沙弥西の浜)

#### 参加者からの意見

昨年度も実施したので、昨年との相違等を確認することが出来てよかった。海からの風が強く、調査エリアを示すために設置した、ポールやビニールひもが絶えず吹き飛ばされそうになっていた。実施時期を7月初旬に設定しているので、天候不順により中止になってしまう可能性がある。(継続実施の課題)

### 愛媛ブロック

#### 伊予市(森海岸)

#### 参加者からの意見

調査により各海岸のゴミの状況が把握できるため、市民の問い合わせに対して正確な情報を伝えることができます。

さまざまな種類の漂流物があり、分別が大変であった。調査範囲については、本調査の範囲が適当であり、継続実施も可能であると思われる。3m×3m=9m<sup>2</sup>

本調査範囲より広範囲になると、多くの人員増や時間、労力を費やすことになると思われる。

### 香川ブロック(東かがわ市)



6月26日、田の浦海岸ほか市内海岸15箇所において、2,215人(大人2,055人子供160人)が参加し、13.68tのゴミを回収しました。

### 徳島ブロック(徳島市)



7月9日に小松海岸において500人(大人400人子供100人)が参加し、4.0tのゴミを回収しました。

#### 参加者からの意見

「雨がかなり降っている中、これだけの人があつまるとは思わなかつた。毎年参加しているが、昔と比べて意識が高まっているのを感じてうれしい」

# 魅力検討委員会活動

## 「海ネットイベント プラン」「コンテスト」 への支援



### 「ふくやま港まつり 2016」



- 会 員 福山市(広島県)
- 開催日 平成28年11月5日、6日、8日



### 徳島小松島港赤石ふ頭 「港の自然アミューズメント」



- 実施会員及び海ネットサポーター名：小松島市、一般社団法人CS阿波地域再生まちづくり
- 実施日：平成28年10月2日



## 「さあ釣りを始めよう！ ファミリー教室 in 中島」

瀬戸内の豊かな自然環境や歴史的な地域文化の保全・継承や、瀬戸内ブランドの価値の向上など、オリジナリティ溢れる地域活性化イベント等への支援を拡充するため「海ネットイベントプランコンテスト」を実施しています。

「海ネットイベントプランコンテスト」は、事前に企画した瀬戸内の魅力を向上させるイベントプランを会員から募集し、コンテスト形式により支援対象イベントを決定、賞に合わせた支援をするものであり、継続的に実施しているイベントの発展、目的意識の明確化、会員間の情報交換の促進などの効果も期待するものです。

平成28年度の各イベント企画の中から協議会会員の審査により各賞に選ばれたイベントが行われました。

- 会 員 松山市(愛媛県)
- 開催日 平成28年9月11日
- 内 容 子どもと一緒に楽しめる時間の過ごし方として、「釣り」を提案し、釣りに興味を持ついる家族の参加を促すことで、周りを海に囲まれた「しま」での楽しみ



- 会 員 湯浅町(和歌山県)
- 開催日 平成28年10月23日
- 内 容 湯浅湾漁協周辺にて、湯浅湾で獲れた良質な湯浅の水産物を広く県内外にアピールし、購買人口及び交流人口の増加並びに町の活性化を図ることを目的として開催され、平成28年度で14回目。また、湯浅町制施行120周年事業と位置づけて開催。湯浅湾漁協周辺にて、湯浅湾で獲れた良質な湯浅の水産物を広く県内外にアピールし、購買人口及び交流人口の増加並びに町の活性化が図られた。また、特に今回は、子どもを対象にした新しいイベントとして、ヨットクルージング体験や巡回水族館といったイベントを企画し、例年以上に多くの子どもたちの参加があった。



## 「紀州湯浅の ギヨギヨっとお魚まつり」

- 参加者(来場者数) 約7,000人

### 瀬戸内のブランド化に 向けた官民連携活動 (海ネットサポーター提案事業)

また、平成29年度イベントに対しても支援を行うため、平成28年11月21日に開催された担当者会において、受賞企画が選出されました。今回、応募企画が1件と3件に満たなかったため、1次審査は行わず、2次審査として出席した海ネット協議会の会員により、どの賞がふさわしいかとして投票を実施し、以下のとおり受賞企画が選出されました。応募にあたって会員からヒアリングした制度改善要望を踏まえ、会員がもっと利用しやすいように制度の見直しを予定しております。

- 会 員 福山市(広島県)
- 内 容 福山港国際コンテナターミナルを会場として、2011年(平成23年)より毎年開催している「大イベント」。2016年(平成28年)は、福山市の市制施行100周年及び福山港開港50周年を迎える節目の年として、重要な事業として開催。帆船「海王丸」を招致して、セイルドリルや船内一般公開、夜間ライトアップなどを通じ、市民が港や帆船に親しみを感じることのできる貴重な機会を提供。特設ステージで地元団体によるパフォーマンス披露やコンサートなどを開催。



### 「ふくやま港まつり 2016」

- 会 員 福山市(広島県)
- 開催日 平成28年11月5日、6日、8日

また、平成29年度イベントに対しても支援を行ったため、平成28年11月21日に開催された担当者会において、受賞企画が選出されました。今回、応募企画が1件と3件に満たなかったため、1次審査は行わず、2次審査として出席した海ネット協議会の会員により、どの賞がふさわしいかとして投票を実施し、以下のとおり受賞企画が選出されました。応募にあたって会員からヒアリングした制度改善要望を踏まえ、会員がもっと利用しやすいように制度の見直しを予定しております。

- 会 員 福山市(広島県)
- 内 容 福山港国際コンテナターミナルを会場として、2011年(平成23年)より毎年開催している「大イベント」。2016年(平成28年)は、福山市の市制施行100周年及び福山港開港50周年を迎える節目の年として、重要な事業として開催。帆船「海王丸」を招致して、セイルドリルや船内一般公開、夜間ライトアップなどを通じ、市民が港や帆船に親しみを感じることのできる貴重な機会を提供。特設ステージで地元団体によるパフォーマンス披露やコンサートなどを開催。

# 情報発信委員会活動

## Webサイト「海の路」のトップページをリニューアルしました。

情報発信委員会では、Webサイト「海の路」に頻繁にアクセスしていただけた、「海の路」トップページをリニューアルいたしました。情報が更新されていることがすぐに分かるよう表示するとともに、情報を発信する側も更新を容易にできるように、また、写真やイラストを多用し、見た目も明るく分かりやすいトップページに更新しました。今後は、トップページに続き、中身も充実させ、会員の皆様方により多くの情報を発信していただき、繰り返しアクセスしていただけるようなサイトを目指します。



### 瀬戸内海活性化活動支援報告

## ネットワーク活動支援

### ①中四国・瀬戸内クルージングサミット

■パイロットグループ／福山市、高松市、瀬戸内市、三豊市、新居浜市

■実施時期／平成28年4月～11月末

瀬戸内海の魅力を「クルージング」という海の視点から再発見し、参加5市の連携を図ることで地域の活性化、発展に寄与することを目的とし、平成22年8月に公共マリーナを有する5つの公共団体を構成員として「中四国・瀬戸内クルージングサミット協議会」を設立しました。設立以来、毎年持ち回りで各市でサミットを開催し、専門家による基調講演や各市長によるサミット(シンポジウム)、開催市での体験クルーズを実施し、本協議会会員市で連携を取りながら瀬戸内海の素晴らしさを広く発信し、知名度向上に努めてきました。

今年度は瀬戸内海クルージングツアーの商品化に向け、モニターツアーを(株)JTB中国四国へ委託して実施(10月30日～31日)し、福山市でサミットを開催(11月22日)しました。

参加者アンケートの結果を検証する事で、5市連携の具体的な取り組みに活用していきます。また、サミットにおいては、構成市の観光情報等の発信も行い、瀬戸内海の魅力を広く周知することで瀬戸内地域全体の更なる振興と発展を図りました。



### ②姫路港ふれあいフェスティバル(秋版)

■パイロットグループ／兵庫県、姫路市

■実施時期／平成28年10月30日(日)

みなとのぎわいや交流促進に資する場として国土交通省近畿地方整備局に認定されている「みなとオアシス姫路」の周辺施設である姫路港飾磨津臨港公園において、県民・市民参画型イベントである「姫路港ふれあいフェスティバル」(秋版)を開催し、約4000名にご来場いただきました。

今年度は、地域コミュニティーの活動や交流を盛り上げるイベントである中播磨地域活動交流メッセと同時開催し、中播磨地域(姫路市、神河町、市川町、福崎町)、とりわけ普段みなとに関わることの少ない内陸部(神河町、市川町、福崎町)の人々をみんなと呼び込みました。また開催日が10月下旬であったことから、みなとDEハロウィンと称した企画を実施し、仮装した来場者にはお菓子を進呈することにより新たな客層(コスプレイヤー、子供)をみんなと呼び入れました。

さらにイベントに合わせ「みなとオアシス姫路」の基本施設として認定されている姫路みなとミュージアムにおいて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の会報誌「海の路」を配布し、多くの来場者に海ネットの基本情報などを知っていました。



### ③広島みなとフェスタ

■パイロットグループ／広島市、江田島市

■実施時期／平成29年3月11日(土)～12日(日)

港の魅力を広く一般市民に発信するため、広島港を中心にイベントを開催しました。

瀬戸内沿岸のまちや島嶼部の観光PR、特産品の販売、港及び周辺のにぎわいづくりとして「港と島を音でつなげ隊」を似島へ遣したり、新たな取組みとしては、似島1周クルーズや南区七大伝説遊覧クルーズを企画し、港や島を身近に感じてもらうことにより、広く活性化を図りました。また、江田島市としては江田島PR隊として出店し、地鶏のチキンを使って炭火焼きや江田島産のカキを使用した炊き込みご飯の販売を行い、江田島をPRし同時に、江田島のPRのチラシ等を購入者に配布し広島と近い港つながりの広報も行いました。また、独自のホームページでPRしたり、フェイスブックも利用することにより、リアルタイムの情報を提供でき、たくさんの方に興味を持ってもらうことができました。



## ⑥「ぱしふいいくびいなす」寄港歓迎イベント

会員名／小豆島町

実施時期／平成28年7月17日(日)

実施概要／クルーズ客船「ぱしふいいくびいなす」が「夏の小豆島ワンナイトクルーズ」(神戸→小豆島→神戸 1泊2日)で小豆島に寄港しました。

寄港歓迎行事として、浴衣に身を包んだ地元の保育園児による歌での歓迎及び上陸記念品の手渡しや、地元関係者による歓迎及び客船への寄港記念品の贈呈、簡易観光案内所の開設を行い、夏らしい小豆島を広く楽しんでもらえました。



上陸記念品の手渡し



保育園児によるお出迎え

## ⑦クルーズ船「ぱしふいいくびいなす」周防大島初寄港歓迎イベント

会員名／周防大島町

実施時期／平成28年8月9日(火)

実施概要／「ぱしふいいくびいなす」の周防大島町への初寄港に伴い、歓迎イベントや振る舞い、観光案内の開設や物産展等を実施しました。上陸予定時間を前倒しにするくらい、ビーチでの海水浴を望まれ、周防大島の青い空と海、白い砂浜を体感されました。

また、会場の各所(桟橋、突堤、テント、看板、乗客へのプレゼント等)において、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」のPRを行いました。



ウエルカムフラ



海ネットのシールでPR

## ⑧客船「ぱしふいいくびいなす」「にっぽん丸」入出港歓迎行事

会員名／下関市

実施時期／平成28年8月13日(土)・14日(日)

実施概要／平成28年8月13日に開催された関門海峡花火大会に合わせて、「ぱしふいいくびいなす」と「にっぽん丸」が下関港に入港しました。

寄港に併せて歓迎式典等おもてなし行事を各種実施し、下関港の魅力向上、ひいては瀬戸内海地域のさらなる振興・PRを図りました。

なお、報道機関に対する広報報道資料の提供に当たっては、海ネットの後援を明記しました。



歓迎式典



海ネットの後援をPR

## ⑨「にっぽん丸」出港歓送行事

会員名／兵庫県・姫路市

実施時期／平成28年8月23日(火)

実施概要／姫路港発着のクルーズで、地元のゆるキャラたちとミュージカル劇団による歌とダンスなどで歓迎し、出港イベントでは、沖縄民謡ユニットの演奏とともに地元ゆるキャラや大勢の市民の方が、紙テープを使って盛大にお見送りをしました。当日は一般市民も含め約200名がイベントに集まり、広く楽しめるイベントとなりました。式の冒頭には「海ネット」の支援を受けて実施する旨をアナウンスしPRしました。



ゆるキャラと子どもミュージカル劇団によるダンス



沖縄民謡ユニットによる演奏

## ⑩「にっぽん丸」出港お見送りイベント

会員名／広島県

実施時期／平成28年9月23日(金)

実施概要／客船「にっぽん丸」が茨城県大洗港発着「世界遺産めぐりと瀬戸内クルーズ」で広島港に寄港しました。

ツアーバスで帰着する乗客を安芸ひろしま武将隊が出迎えし、乗客は記念撮影などを楽しみました。また、出港時には安芸ひろしま武将隊が口上(自己紹介)、殺陣、歌のパフォーマンスを行い、広島の魅力をPRとともに、広島港のにぎわいを創出し、また、瀬戸内海全域の振興を図りました。



ツアーバス到着時のお迎え



殺陣のパフォーマンス

## クルーズ船等 寄港地歓迎イベント支援

### ①「ぱしふいいくびいなす」寄港歓迎イベント

会員名／福山市

実施時期／平成28年5月15日(日)

実施概要／福山市市制施行100周年、福山港開港50周年を記念して寄港する「ぱしふいいくびいなす」の福山港入港を歓迎する式典などを開催しました。

広島県無形民俗文化財に指定されている「蔵王のはね踊り」の出迎えや、物産品の販売や地酒のふるまいを行い、乗客の皆様に折りばらを配るなど、広島県東部地域、ひいては瀬戸内海全域のさらなる振興・PRを図りました。



物産品の販売  
蔵王のはね踊り

### ②クルーズ船「にっぽん丸」寄港歓迎式典

会員名／中津市

実施時期／平成28年5月22日(日)

実施概要／「にっぽん丸」の中津港寄港の歓迎イベントに地元の高校生によるチアリーディングや園児によるお出迎え、物産展を行いました。事前に市のHPや市報で周知したことで寄港前から問い合わせが相次ぎ、当日は多くの見物客が訪れました。特に出港時には豊後みさき太鼓、地元の高校生による書道・吹奏楽の演出に700人以上が岸壁に集まり、中津港の魅力向上・PRに繋げることが出来ました。海ネット機関誌「海の路」の配布、「海ネット」の共催を掲示しました。



紙テープのお見送り  
園児のお出迎え

### ③「カレドニアン・スカイ」寄港歓迎イベント

会員名／香川県

実施時期／平成28年6月3日(金)

実施概要／客船「カレドニアン・スカイ」が、「2016年アジアクルーズ」で高松港に寄港しました。歓迎イベントとして讃岐うどんの振る舞いや、地元園児による折り紙を使った交流を行いました。折り紙交流は大変好評いただき、高校生による書道パフォーマンスは乗船客のほとんどが観覧するなど、地元の人と交流できる機会を楽しんでいました。歓迎行事の告知では「海ネット」の後援であることをPRしました。



鼓笛隊演奏  
讃岐うどんの振る舞い

### ④旅客船「ぱしふいいくびいなす」入港歓迎事業

会員名／八幡浜市

実施時期／平成28年7月14日(木)

実施概要／八幡浜港みなとまちづくり協議会で旅客船「ぱしふいいくびいなす」の歓迎セレモニーを開催しました。船長から「八幡浜に度々寄港できるようにしたい」との言葉をいただきました。船内見学会は平日にも関わらず予想を上回る応募があり、市民のクルーズ船への関心の高さを知ることができました。乗船客からは、蛇口から出るみかんジュースが大変好評でした。



蛇口から出るみかんジュース  
寄港歓迎セレモニー

### ⑤「ぱしふいいくびいなす」尾道糸崎港寄港歓迎

会員名／三原市

実施時期／平成28年7月15日(金)

実施概要／客船寄港に合わせて地元伝統芸能の披露(和太鼓演奏・やっさ踊り)や、臨時土産店設置等でおもてなしをしました。見学客へは、情報発信ブースで「ぱしふいいくびいなす」の基礎データやパンフレットの提供を行うなど、寄港歓迎行事・送別行事を通じて、広島県東部地域、ひいては瀬戸内海全域のさらなる振興・PRを図りました。



郷土芸能披露  
歓迎セレモニー



## ①マリン・グラン・フェスタ2016

概要：イベントを合同開催し、海事思想の普及、船艇産業の振興、安全なマリンレジャーの推進、「海の駅」の周知、地域の活性化及び利用拡大等を図ることを目的として、平成28年4月16日～17日、広島観音マリーナにおいて開催しました。

## 後援活動報告



## ②第8回みなどオアシスSea級グルメ全国大会in玉野

概要：平成28年7月23日(土)～24日(日)に宇野港第一突堤周辺(玉野市)で開催された本イベントは、地域の食による交流促進を目的として開催され、全国のみなどオアシスから16店のSea級グルメが参加しました。



表彰式の様子



## ③平成28年度瀬戸内クルーズセミナーin姫路

概要：平成28年11月15日(火)に姫路市民会館中ホールで開催された本イベントでは、今年度も爆発的に増加しているアジア地域での外国クルーズ客船を瀬戸内海エリアに誘引し、急増する外国人旅行者もこのエリアに取り込んで行く方策を地域が検討していくことなどを目的に平成28年11月15日に姫路市において瀬戸内クルーズセミナーを実施しました。

## ⑪「飛鳥II」寄港歓迎イベント

会員名／北九州市  
実施時期／平成28年9月27日(火)  
実施概要／日本船籍の「飛鳥II」が、約470名の乗客を乗せて門司へ寄港しました。岸壁では地元特産品の販売、門司港発祥バナナの叩き売りなどのイベント、飛鳥II船内見学会を行いました。出港時、地元の保育園児による太鼓の演奏や、消防音楽隊によるコンサートでセレモニーが盛り上がり、船のデッキに出ていた乗客から「ありがとう!」掛け声があり、これに岸壁からは「また来てね!」と声を掛け、感動的な出港風景となりました。当日は九州朝日放送・KBCラジオ「ガブリパ」にて生中継されるなど、瀬戸内の一港である門司の賑わいづくりを行うと共に、その魅力をPRしました。



バナナの叩き売り

消防音楽隊

## ⑫「にっぽん丸」寄港歓迎イベント

会員名／玉野市  
実施時期／平成28年10月11日(火)  
実施概要／クルーズ客船「にっぽん丸」が瀬戸内国際芸術祭2016パートナーシップ特別企画芸術鑑賞クルーズにより、乗客約400名を乗せて宇野港へ寄港しました。大型客船の寄港は、宇野港宇野地区のにぎわい創出と、県内の観光振興につながることから、入港時に歓迎セレモニーを実施し、岡山県ひいては瀬戸内海全域の振興を図りました。また、同時に開催したにっぽん丸の船内見学会には地元の方などが参加し、クルーズ船の魅力を感じていただきました。イベントの開催については、岡山県及び玉野市のホームページや玉野市Facebookにて情報提供を行いました。



歓迎式

入港セレモニー

## ⑬外国クルーズ客船(ロストラル)歓迎イベント

会員名／宇和島市  
実施時期／平成28年10月17日(月)  
実施概要／今回初めて埠頭の一部を一般開放し、市民の皆様もおもてなしにご参加いただき、参加者を拡充しました。併せて、四国で初めて港での臨時の消費税免税店(臨時販売場)の出店を実施し、クルーズ船乗客はもとより、船員からも宇和島の特産品を購入できる場所があり、良かったと好評でした。初の臨時免税販売場を開設したこともあり、各種メディアが取材に訪れ、広くテレビ・新聞等で発信して頂きました。



歓迎イベント

園児のお見送り

## クルーズ船誘致活動支援

### ①海外船社等招聘事業

会員名／宇和島市  
実施時期／平成29年2月21日(火)～22日(水)  
実施概要／米国高級ツアー取扱会社「アバクロンビー&ケント(Abercrombie & Kent)」社がクルーズを利用した日本の高級パッケージツアーを計画していることに伴い、瀬戸内海(愛媛)の魅力等を効果的・戦略的に伝え、寄港誘致を促し瀬戸内クルーズを振興するため、同社を宇和島市に招聘しました。現在、宇和島市にて、他の外国クルーズ客船がオプショナルツアーとして巡るコースを中心に視察(売込)を実施し、好印象を持っていただき、実際に宇和島市へのツアーコースを検討して頂くこととなりました。



土居真珠視察

天赦園視察

### ②客船フェスタ2017

会員名／神戸市  
実施時期／平成29年2月25日(土)  
実施概要／神戸開港150年を迎え、より多くの市民の皆様にクルーズ客船や港に親しみや魅力を感じていただくとともに、乗船客の皆さまを神戸ならではのおもてなしで歓迎するため、外国客船「ノーティカ」の寄港にあわせ、2月25日(土)に『客船フェスタ2017』を開催しました。

当時はクルーズ旅行の楽しさを伝えるクルーズセミナーやたくさんの子供達が参加した「みなどまち神戸オリジナル下敷きをつくろう!」が行われ、大変な賑わいをみせました。



クルーズ客船お出迎え



オリジナル下敷きづくり



# 第10回 瀬戸内海首長サミット

「地域連携による瀬戸内海クルーズの活性化に向けて」

平成28年5月31日 大分県中津市

●瀬戸内海首長サミット参加市町村



刈田町長  
吉廣 啓子

一昨年観光協会を立ち上げた。セメント工場や自動車製造工場見学もできれば、鍾乳洞や温泉もあり、全国でも有名な神楽の里でもある。これら観光資源を活かし、連携して瀬戸内海クルーズの周遊ルートを形成し、地域の活性化に繋げたい。



宇部市長  
久保田 后子

瀬戸内クルーズの確立にあたって、当面の課題は誰が企画をするのか、商品として打ち出すのか。商品化には、地域の魅力あるストーリーが必要。当市には、官民が協力して公署を克服するとともに、緑と花と影刻のまちづくりに取り組んできたドラマがあり、これを積極的に発信して観光的、一元的に観光施策を推進している。瀬戸内海地域のクルーズ船誘致は、官民を挙げて総力を取り組み、劇的な成果に繋がると確信している。



大竹市長  
入山 欣郎

船で宿泊される方々が周辺地域に滞在できるよう知恵を絞る必要がある。わがまちでは、広島県では唯一残っている和紙作りの体験、レモンの実を与えて育ったハマチ、日の出やさきら光る海、工場の夜景などを楽しみ、ゆとりの時間をもつてもらおうことで、貢献できる部分があると考えている。地域連携による瀬戸内海クルーズの活性化に向けて、貢献できることを今後も検討してまいりたい。



坂町長  
吉田 隆行

小さな町のため、あまり多くの観光客が来ても対応できないこともある。海を活用して、人工海岸での釣りや、夏の海水浴、春先にはウインドサーフィン等、年間を通して様々なイベントを開催。去年1年間で12万人が参加した。こういったイベントと海軍工廠といった近代化遺産を組み合わせて売り出す。それらを企画実行する民間業者を行政が支えていく手法を磨いていきたいと思う。



吳市長  
小村 和年

吳市には海上自衛隊の護衛艦が44隻あります。各艦に料理長の特製カレーが存在している。それを市内のレストランで提供し、スタンプラリーを開催。去年1年間で12万人が参加した。こういったイベントと海軍工廠といった近代化遺産を組み合わせて売り出す。それらを企画実行する民間業者を行政が支えていく手法を磨いていきたいと思う。



播磨町長  
清水 ひろ子

播磨町では、博物館、遺跡、公園、百花園などを見て回り、それらと海辺を結ぶ遊歩道を整備し、海に親しみやすいまちづくりを進めている。神戸市や姫路城にも近い立地であり、著名な観光地と組み合わせることが可能。来年は町制施行55周年を記念して日本丸を誘致したい。



高石市長  
阪口 伸六

中古車の輸出は全国第3位、工場の夜景見学ツアーは競争率約18倍と、非常に好評を博している。クルーズ船を誘致し、沖合に停泊して海から工場の夜景を見れば本当に素晴らしいし、停泊した船から小型船に乗り換えて、工場の近くまで寄って観光客に見せるもの評判になると思う。協力させてください。大賛成です。



海南市長  
神出 政巳

海南市は、クルーズ船着岸可能な港はないが、隣接する和歌山と連携をし、広域的な観光ネットワークを構築したい。観光資源としては熊野古道に代表される文化財、最近は黒塗りの薪絵体験などが観光客に好評である。観光型の周遊ルートとして海南市の魅力、そして和歌山県の魅力を世界に広めたい。



国土交通省大臣官房技術参事官  
津田 修一

ご参加の首長の皆さんのお話を伺って、観光客を瀬戸内に呼び込みたいという熱意を感じた。この協議会での連携を構築し、それぞれの魅力を活かしたツアーや提供することで多くの観光客に来て頂ければ、地域の活性化につながっていくでしょう。一方で、企画やPRを積極的に展開頂き、協議会が発展していくような工夫が出来れば良いと思う。国交省としてもそういう活動に対して支援していかないと考えている。



九州運輸局次長  
濱田 哲

ラグジュアリークラスの中型船を誘致のターゲットとすることは、瀬戸内小さな港にもできること、乗客数が500人前後と受け入れが比較的容易であることから、非常に当を得ている。そこで重要なのは、外航船や航船、短期や長期船等、条件を設けて誘致をすることである。また、周遊ルートはオリジナル性やストーリー性、新しい観光素材が常に求められるので、複数の地域による連携したテーマ設定をしつつ、多島美で知られる瀬戸内の風景と温かな気候を活かしたクルーズルートの設定とPRの強化を図ることも有効である。



中津市長  
奥塚 正典

中津市は耶馬溪という景勝や、旧鉄道敷きを利用した自然のサイクリングロード、自動車工場、そして海の幸、山の幸に恵まれている。ボートセーリングは、単独やるよりも皆さんとの連携が大切。航空機でやって来て、そこから船に乗り換えて旅を続けるというようなやり方も検討してはどうか。



姫島村長  
藤本 昭夫

姫島村は1島1村、大分県唯一の村である。3年前に「おおいた姫島ジオパーク」が日本ジオパークに認定され、ジオサイトのうち特に黒巖石は「姫島の黒巖石産地」として、国の天然記念物に指定されている。春先には渡り鳥のアサギマダラが、沖縄から東北へ移動する途中姫島で休息する。また、村営フェリーを使って島を一周する「ジオクルーズ」を実施している。そして、第三セクターの車えびの養殖は、生産量は一企業では日本一である。



津久見市長  
川野 幸男

津久見市はセメントとミカンと野菜のまちといわれており、石灰石の産出量は約2,500万トンで日本一である。海とセメント工場と鉱山を組み合わせた津久見ならではの景観を生かし、新たな観光戦略を作ることとしている。これに扇子踊りや河津桜、イルカ島、遠洋漁業基地である保戸島のマグロなどを組み合わせてアピールをしていただきたい。



佐伯市長  
西嶋 泰義

佐伯市は大分県全体の漁獲量と収穫量の半分を占める漁業の町で、そうした豊富な魚を作る干し魚は年間40億円を売り上げる。また、海と空港の町でもあり、施設や防空壕の跡が残っており、海上自衛隊の船が300隻佐伯市に入ってる。クルーズ船の誘致にも期待している。今年は全国B1グランプリの西日本大会が佐伯市で開催されるので、皆さん是非お越しください。



宇和島市長  
石橋 寛久

宇和島市には10年前からラグジュアリークラスの小さい船がときどき来ていたが、昨年は4回に倍増した。寄港の理由は城郭や神社仏閣など、昔の日本の風景がコンパクトに見られるからだそうで、宇和島の主要産業の一つである真珠の核入れを体験できるツアーも人気である。国内よりも海外で有名なムササビ寺のように、ある程度火がつくとツアーや会社のほうから興味持ってきてくれる。



伊予市長  
武智 邦典

海沿いを走るJRの伊予灘物語という列車が好評を博している。また、伊予市は体験型イベントとしてはそば打ち、ハート型に型をとったじゃこ天をカップルで食べるなどといったことが広く認識をされている。この瀬戸内海地域を伊予市を含めて周遊していくことにより、活性化につながっていけばと考えている。

\*出席者の役職名は平成28年5月31日現在です。